

職業別タウンミーティング(要約)

テーマ：商店街振興と地域活性化

平成29年4月21日（金曜日）

【市長】 皆さん、こんばんは。週末の夜ですので、何かと用事があったのではないかと思います。このようにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、このタウンミーティングの開催にあたりましては、商店街の役員の皆様方、まちづくり協議会の役員の皆様方にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。私が市長に就任させていただいたのが、平成22年の11月末のことでした。このタウンミーティングは、1期目の公約に掲げていました。どちらが楽かという、市役所で皆さんが来られるのを待っているほうが楽です。でも、果たしてそれでいいのでしょうか。我々のほうから各地区に出向いて行って、皆さんの声を聞かせてもらいましょうと「魅力は伸ばす、課題は減らす」というタウンミーティングを重ねてきました。このタウンミーティングでは、できるだけ早く市政に反映します。中には、愛媛県や国と関係するものや、財政的な問題がある案件がありますが、それらはいい加減な返事をして帰るわけにはいかないの、一旦持ち帰らせていただいて、1カ月を目途に必ず返事をします。やりっぱなしにしない、聞きっぱなしにしないタウンミーティングをやってきました。松山市内は、旧北条市、旧中島町、あわせて41地区に分かれています。市長の任期は1期4年の48カ月ですから、41地区を毎月1地区のペースで回っていけばいいと思っていましたが、おかげさまで好評になりまして、1期目の4年間で41地区を2巡りさせていただきました。2期目に入らせていただいて、地域別のタウンミーティングに加え、新たに世代別や職業別のタウンミーティングをしています。世代別タウンミーティングでは、子育て世代の方、大学生や専門学校の若い世代、人生の先輩方に集まっていただいていたのタウンミーティングなどを開催しています。また、商店街関係や農業関係の方々に集まっていただく職業別のタウンミーティングもしています。私は小学校卒業まで萱町六丁目の県職員住宅で過ごしました。かやまち商店街さんをよく通っていて、大変気になるまちでしたので、かやまち商店街の皆さんともタウンミーティングをしたいと思っていました。今日は皆さんと90分間という長い時間ですが、ざっくばらんな意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

【司会】 それでは、テーマ趣旨について市長からご説明いたします。

【市長】 今日『商店街振興と地域活性化』というテーマです。今日、私が入ってきたときに、皆さんがお互いに話をしておられました。いろんなところにタウンミーティングで行かせていただきますが、中には「しーん」とされているところもあります。皆さんが話をしているということは、コミュニティがあるということですから、萱町はいいのではないかと思います。それでは、商店街の活性化ということで、他の商店街の例をご紹介します。まずは、通行量が2倍に増えた静岡県浜松市の「ゆりの木通り商店街」の取り組みです。皆さんのお手元に資料があると思いますが、持って帰って参考にさせていただけたらと思います。浜松市全体の人口は80万人です。浜松市は政令指定都市ですから、東京のように区があり、ゆりの木通り商店街がある中区は人口24万人です。そこは、中心市街地の空洞化が進んで空き店舗が増加していましたが、一方で大型店では扱わない、こだわりのある品物を扱う物販店は残っていました。そこで、空き店舗があることを逆手にとって、アーティストや建築家をはじめ、まちづくりに関わる若者に場を提供していくうちに、商店主と外部の人たちが話し合っ、さまざまな企画やイベントを実施していくようになりました。ゆりの木通り商店街に多様な人材が集まる背景には、空き店舗を使ったセミナールーム兼交流スペースの存在が挙げられます。ここで口を挟みますが、かやまち商店街さんの近くには、愛媛大学や松山大学に通っている学生たちが住んでいるところも結構あるんじゃないかなと思います。それに対する松山市の補助もありますので、ヒントにさせていただいたらと思います。ゆりの木通り商店街には、普段は誰でも自由に使うことができるセミナールームに、商店街とは今まで無縁だった人たちが集まって、事業を起こして誘客につなげてくれています。また、空き店舗をなくすために、店のご主人をはじめ、不動産業や銀行などの多様な人が集まり、こだわりの商品を扱う店が健在という現状を生かして、物販店の誘致を始めました。出店を誘致するだけでなく、出店後のフォローとして、商店主の横のつながりをつくるための情報交換を目的とした朝食会をしているそうです。そこから、商店街活動に関わりを持ってもらうなど、安易な撤退にはつながらないようにするための取り組みを行っています。この商店街では、3年間に33軒の新規出店がありました。浜松市の歩行者の通行量調査では、商店街の危機に直面しつつあったときに比べて、現在の通行量はほぼ2倍に増加しています。似顔絵看板プロジェクトというものがあって、学生さんを使って、商店街のご主人の顔を描いて看板にする取り組みがあります。かやまち商店街でもすることができるのではないかなと思います。例えば、愛媛大学や松山大学で、美術のサークルに入っている学生さんや美術

が得意な学生さんがいると思います。また、松山には専門学校が存在もあり、河原学園ではアートを学んでいる学生さんたちもいます。学生さんからすると、商店街のご主人の顔を描くというのは、自分たちの作品になって、それを見ていただけるということになります。また、似顔絵を描いていただくと親しみもわきますので、似顔絵看板プロジェクトもいいのではないかなと思います。市民の方の中には、自分で手作りの物をつくって、それを皆さんに見てもらいたい、よかったら買ってもらいたいという人もいます。そういう人たちに場所を提供して、手作り品バザールというやり方もあろうかと思いますが、やり方はいろいろあると思います。どこの商店街さんもなかなか厳しい現状であることは間違いないですが、こうやってできているところもあります。うつむいてしまうと、アイデアはなかなか浮かばなくなります。今日は、商店街の皆さんが一同に集まられていますので、皆さんと前向きな取り組みができればと思っています。あとで、地元と県外の取り組みを一つずつご紹介しますが、私ばかり長く話してもいけませんので、一つの事例を紹介させていただきました。どうぞ皆さんからのご意見をお願いします。

【男性】 本日は、『商店街振興と地域活性化』というテーマでタウンミーティングをしていただくために、お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。かやまち商店街の現状ですが、今28店舗あります。近々1店舗増えて29店舗になりますが、今日来ている「かやまちカフェ」の方にお店を出していただきます。以前は70店舗ぐらいあったのが、大分衰退し、今28、29店舗という状態です。商店街で行っているイベントは、夏祭りに、輪越し祭り夜市と天神祭り夜市で、これは皆さんが来てくれて結構にぎやかです。それと、年末には商店街フェスタというイベントをやっています。今後、落語とか、お絵かきとか、新しいイベントを年に2回ほど、まちづくり協議会さんとやっていこうかなと思っています。先ほど野志市長がおっしゃったように、若者の似顔絵などを考えてみたいと思います。本日は皆さんの忌憚のない意見を聞かせてもらいたいと思います。市長さんと関係者の皆様、本当にありがとうございます。

【市長】 何かご意見がありましたら、遠慮なく言ってください。

【男性】 では、早速質問してよろしいでしょうか。私は、ITのことなどをやっていますので、かやまち商店街にWi-Fi環境を整えてみてはどうかと思いますが、よろしければ検討してください。

【市長】 はい、わかりました。地域経済課長、Wi-Fiのことについてはどうでしょう。

【地域経済課長】 地域経済課長の宇野でございます。ご質問ありがとうございます。今、愛媛県と松山市が計画的にW i - F iを整備していますが、現在は味酒地区には、W i - F i整備の予定はありません。一方で、松山市の補助金の中には、商店街の共同施設の整備として3分の1を補助しているものもありますので、それを活用いただければ、W i - F iの整備ができます。それから、愛媛県が推進している「えひめF r e e W i - F iプロジェクト」というものがありますが、W i - F i機能が備わった自動販売機があり、そのプロジェクトに参加している自動販売機の事業者さんがいらっしゃいます。所管は愛媛県になっています。かやまち商店街は、結構人が来るところですので、一度お伺いになられて事業者さんに見に来ていただければ、ニーズが合うかもしれません。できればそういう形でさせていただければと思っています。

【市長】 このように「こんなことしたいんやけど、何かできまいか」「こういう補助がなかるか」と聞いていただいたら、「我々でできる補助の仕組みがあります」。また、ない場合には、「松山市にはないけど、県や国にはこういう仕組みがありますよ」ということをご紹介することができますので、遠慮なく相談いただければと思います。先ほどのW i - F i付きの自動販売機ですが、私も機械が苦手なほうで、「W i - F iって何」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、家の中で使っているパソコンや携帯、タブレットなどのネットワークの機械が、コードでつながなくても、無線で扱えるようになるのがW i - F iという方式です。それを持っていると、例えば、お店の情報が手元のタブレットで見られるということで、W i - F iが欲しいなという話が今出ています。愛媛県さんの「えひめF r e e W i - F iプロジェクト」に参加している自動販売機の提供事業者さんは8つあります。サントリービバレッジサービスさん、タケシヨウさん、エレコムさん、ウエストアライアンスさん、ダイドードリンコさん、アサヒ飲料さん、四国コカ・コーラさん、四国キャンティーンさんです。かやまち商店街さんは本当に人通りも多いので、こういうやり方もあるのではないかなと思います。また、商店街の共同施設の整備として、補助対象の経費の3分の1を松山市で支援するというやり方もありますので、お問い合わせいただいたらと思います。

【男性】 味酒地区まちづくり協議会会長です。本日はタウンミーティングということで、味酒地区という限定したテーマで話し合いいただける場所を提供いただき、本当にありがとうございます。市長さんをはじめ、関係の部署の皆さんに重ねてお礼を申し上げます。味酒地区まちづくり協議

会ですが、かやまち商店街を味酒地区の宝として掲げ、かやまち商店街の会長さんを7部門ある中の地域振興部の部長として選ばせていただいています。そこで、かやまち商店街の活性化を目的に、具体的な方法を検討していますが、地域住民の参加型の商店街を目指していきたいということで、お餅つきや読み聞かせ、パステルカラー教室やコンサートなどを計画しています。

【市長】 今、イベントのご紹介がありましたので、2つ目の成功事例の大阪市駒川商店街の取り組みをご紹介します。駒川商店街の特徴は地域で連携したイベントを年間90回実施していることです。1年365日ですから、4分の1ということになります。駒川商店街は、大型商業施設などの立地によって競争環境が激化する中で、商店街として、行政や地域住民と一体となって、地域コミュニティの創出強化に取り組んでいくべきと考えました。そこで、自治会やPTAなど、地域の団体と連携することで、ニーズの把握、地域連携イベントを実施して、大規模な集客につなげています。ここがうまいのは、ニーズの把握をしっかりと自治会やPTAなど、地域団体と連携していたことが大きいと思います。味酒地区まちづくり協議会さんが、7部会の中に地域振興部会をつくられて、その部会長さんに商店街振興会の会長がなられ、地域と商店街が連携していると思います。駒川商店街は、地域連携イベントを実施して大規模な集客につなげていますが、商店街に行けば何か楽しいことがあるというイメージを持ってもらって、繰り返し商店街に来てもらえるように努めています。また、高齢の方や商店街利用者の情報交換や休憩の場としてコミュニティカフェを設置しているほか、子育ての支援スペースも整備をしています。これによって、来街者の中心である高齢者と、来街者を増やしたい子育て層に向けた対策に取り組んでいるわけです。皆さんもよくご存知のように、味酒小学校は1,000人近くの児童がいて、松山の中でも児童数が多いです。また、若いときは郊外に住んでいたけれども、年をとってきて、「電車で移動できるところがええなあ、大きい病院が近くにあるところがええなあ」ということで、堀端あたりにマンションが増えてきています。若い人だけではなく、高齢の方にとっても、かやまち商店街が近いというのはプラスではないかと思います。駒川商店街では、毎年7月に駒川祭りを行っていますが、地域内外から約4万人もの人が参加をしています。2014年にはさまざまな活動が評価されて、大阪府の商店街で初めて、経済産業大臣賞を受賞したそうです。無料の寄席や商人（あきんど）体験、社会科見学の受け入れを商店街でしています。また、月曜にビッグマンデーと称したセールを行い、さまざまな取り組みをしているそうです。イベントのお話

がありましたので、駒川商店街の取り組みをご紹介させていただきました。

【男性】 かやまち商店街の者です。いつもお世話になっています。かやまち商店街では、会長と市長さんに発表していただいたことを過去60年の歴史の中でやってきています。私が担当ですが、味酒小学校の歴代校長とお話をしながら、10数年に渡って、味酒小学校の子どもたちに商売や人とのつながりを教える試みを行っています。また、勝山中学校の社会見学を導入しています。そして、夏祭りは、最初は平和通六丁目をお借りして、約20年間、今の愛媛銀行の角までを盆踊りの場所としていました。それから、松山市との話の中で、商店街の中でやっていただけないかという事案が発生いたしました。それが昭和48年ぐらいのことだと思います。そのころに、かやまち商店街で盆踊りをさせていただくようになりました。そのときに、城北商工会振興会様が中心になり、味酒地区全域の婦人部、小学校、PTA、そして各商店街企業に参加をいただきまして夏祭りを実施しました。そのときの参加人数は大体300人ぐらいで、本当にたくさんの踊り連に参加していただきました。それがなぜ消失してきたかというところ、やはり手伝いの人員の減少です。皆さんがお年を取られて活動が非常に苦しくなったということが、第一だと思いますが、松山市で、人の貸し出しやお手伝いみたいなことはできるのでしょうか。そのあたり教えていただいたらと思います。

【市長】 今年度から新たに始めるアドバイザー派遣という取り組みがあります。各商店街の要望に応じた企画やマネジメント、事務の実務的なアドバイスをを行うアドバイザーを派遣する制度を始めます。利用は無料で、複数回利用可能です。これは委託予定になっていて、愛媛県中小企業団体中央会が5月以降にスタートする予定です。それから、できれば、先ほど申し上げたような愛媛大学や松山大学や河原学園の学生さんたちと一緒に取り込んでいくというやり方もよろしいのではないかなと思います。これは、市役所の中だと思って聞いてください。かやまち商店街さんの話じゃないと思ってください。市役所の中で厳しく言っていることは、「やっただけではだめで、必ずPDCAサイクルに乗せなさい」ということです。Pは「プラン」で、しっかり計画を立てること。Dは「ドゥ」で、計画を立てて行うこと。そして、Cは「チェック」で、評価をしてくださいということ。そして、Aは再び行動してくださいという「アクション」です。よくPDCAサイクルを繰り返してくださいと言っています。松山市でイベントを実施しますが、ただではいけないですよ。私が就任させていただいてから、必ずイベント実施報告書を出してくれと言っています。

よいところはわかっているので、だめなところを書いた実施報告書を出してくれと言っています。それを出すことによって、必ずチェックしたことが改まります。松山市役所では、今P D C Aのサイクルを大事にしているということを申し上げます。

【市民部長】 商店街のイベントなどに人手が必要だということですが、味酒地区には、昨年、まちづくり協議会ができました。まちづくり協議会は地域内のいろんな団体が参画しています。それによって何が可能になるかということ、地区全体の意思決定ができるようになります。例えば、今までは町内会が集まっても、学校はそうは思っていないとか、企業の方々は違うということがあったと思います。まちづくり協議会ができたわけですので、ぜひ活用いただいて、人手のことなども含めて、皆さんで話し合っていたいただきたいと思います。松山市からは「まちづくり交付金」という形で支援させていただいていますので、その使い方を内部で決めていただければいいと思います。

【男性】 かやまち商店街の者です。商店街の中は結構古くなっていて、「商店街振興施策ガイド」を見ると、商店街の正面玄関のリフォームなどに補助が出るようになっていますが、どのようにしたら補助が出るんですか。お金の話ですみません。

【市長】 大丈夫です。市民の皆さんに利用してもらうための補助ですから。地域経済課長からご説明します。

【地域経済課長】 ご質問ありがとうございます。「商店街共同施設設置等事業」は、先ほどおっしゃっていただいたようなところにも、活用できます。事業費が100万円以上で補助率は3分の1です。具体的な計画をお持ちであれば、私どもに言っていただければ、個別具体的に説明します。

【男性】 そうというのは、市役所で手続きをしてもらうという形になるんですか。

【地域経済課長】 ただ、3分の1を補助するということは、3分の2は自己負担ということになりますので、そのあたりはよろしくお願いします。

【男性】 かやまち商店街は駐車場がないんです。昔であれば、少々車を停めていても、みんなが買い物に来ているのはわかっているので、誰も文句を言わなかったんですが、新しいビルが建ったりして、近ごろは通報されるんです。お巡りさんも本気で取り締まる気はないと思うんですが、一応警告だけして帰ってくれる形です。そうなると、みんな車を停めておく時間もちょっとだけになるので、松山市のほうで、商店街の周り、近所の

どこかを買って、駐車場をつくってくれないか。各店舗に来るお客さんは1時間もいないと思うので、割引券とか100円チケットみたいなものをつくっていただけたらと思います。

【市長】 駐車場の件ですね。松山市で駐車場をつくるというのは、なかなか難しいのではないかなと思います。エルベさんのところに駐車場があって、買い物をしてもらったら、商店街の方々から駐車場の割引チケットを出すような形が可能性としては高いやり方なのかなと思います。先ほどの商店街共同施設設置等事業ですが、補助の具体例を申し上げます。例えば、平成26年の実績では、まつちかタウンの構内の照明の改修事業に25万6千円を出しています。3分の2は、まつちかタウンさんで出しているという形になります。また、大街道中央商店街の放送設備の改修事業や、ロープウェー商店街の全天候型テント整備及び防犯カメラ設置事業でも補助を出しています。遠慮なく相談していただければと思います。地元での施設整備の取り組みがありますので、ここで、平井商店街の取り組みをご紹介します。平井商店街は店舗の数がかつての3分の1以下の13店舗にまで減少しました。ここは、すずらんの花の形の街路灯がありますが、地元の商店街が設置した街路灯の維持管理にも苦慮されていました。一方で、商店街の空き店舗を活用した松山で第一号となる常設型の「ふれあいサロン」があります。この写真を見てください。おじいちゃんと子どもが囲碁をしている光景がありますが、多世代との交流や高齢者の交流の場として定着しています。また、「土曜夜市」や20年を超えた「女の秋祭り」などのイベントも行い、大勢の地域住民が集まるなど、コミュニティの拠点としての大きな役割も担ってきました。昨年末に動きがあり、平井商店街の関係者はもちろんのこと、小中学校のPTAやスポーツ少年団など、地域の団体が一体となって、商店街の課題解決に向けて取り組みたいというご相談をいただきました。商店街と地域の団体が一丸となって対策を講じたいというまち全体の思いが伝わるものでしたので、市役所としても、街路灯のLED化やイベント補助などに協力させていただくことにしています。かやまち商店街でも、このようなことがありましたら、松山市としても積極的に協力させていただきたいと思っています。

【男性】 まちづくり協議会事務局長です。タウンミーティング100回記念で、ついこの間、市役所に行ってFM愛媛のラジオでインタビューを受けたばかりですが、100回のタウンミーティング、本当にご苦労様でした。先ほどの意見にもありました駐車場の問題についてです。今、かやまち商店街の一部の店舗の方は、駐車場を自前で持ったり、いろいろ企業

努力しているのは見えています。ところが、先ほど紹介のあった成功事例では、表には出ていないですが、必ず駐車場のようスペースを設けていると思うんです。松山市に借り上げてくれというのは難しいと思うので、かやまち商店街が一番近い市の所有の部分で、私が考えたのは堀之内の産院跡です。産院跡は社会福祉協議会のイベントなどに貸し出されているんですが、地域のイベントなどにも、市の施設を貸し出してもらえるのか、あるいは、特例を設けていただくというのはいかがでしょうか。

【都市・交通計画課長】 都市・交通計画課長の石井です。よろしくお願ひします。堀之内公園は、文化財保護法で市の決定権が非常に少なく、使用するためには毎回文化庁にお伺いを立てるようになります。公園の1期整備が終わったときに、文化庁に、公園に来る方の駐車場用に松山市も駐車場が欲しいという話をしましたが、それでさえ認められなかった経緯があります。市の所有地で公的なものにかかわる部分についてだけ、短期間認めているような状況なので、申しわけない返事になりますが、今のところ市の関与部分が非常に少ないので、今後も引き続き研究はしていきますが、現状は非常に厳しいということをご理解いただければと思います。

【男性】 それでは、税務署がある合同庁舎の北側はどうでしょうか。申告時期は非常に混んで交通規制をして一方通行のようにしています。要は公的なものを活用しないと、一部の個人のところだけではなかなか大勢の方にイベントに来ていただくことは難しく、こちら準備をしないといけません。あそこは公園外です。

【都市・交通計画課長】 税務署の建物は国の管轄下にあります。即答はできませんので、問い合わせをして、お答えを返すようにさせていただきますと思います。

【市長】 今のお話ですと、若草の庁舎ですかね。月曜から金曜はなかなか難しいと思いますが、土日祝日にかやまち商店街さんがイベントをされるときのですね。どのようにご判断されるかわかりませんが、国のほうに話をしてみます。

【男性】 集客するにもいろんな方がいらっしゃると思うので、家族で来てもらうにも車という交通手段を考慮しておかないと、イベントをやるけれど車を停めるところがないでは、集客は望めないと思います。ただ、距離的な問題がありますので、あの距離が限度かなと思います。保健センターを貸してくださいと言ったら、多分OKだろうと思うんですが、保健センターからかやまち商店街までは、距離的に無理だろうと思います。

【市長】 皆さん、考えられるとしたら若草の庁舎のところの駐車場を貸してもらえたらいいなということですね。ほかに挙がる場所はないですか

ね。保健センターは確かに遠すぎますかね。

【男性】 先ほど市長さんがおっしゃったエルベさんですが、前会長さんのときに話はしていてOKはもらっていますが、あそこでも皆さんが上まで行かないといけないので、ほとんど利用していません。現実には、イベントは土日に限らず、平日にも多いし、イベントをする方も来るので、皆さん、フジに停めています。それが現実です。

【男性】 過去2回、平成26年、27年の夏の豪雨により、かやまち商店街で水害が起きました。そのときに、中央消防署よりポンプ車1台、隊員6名に対応いただき、商店街への土のうの配布、住民への適切なアドバイス、保健所等の消毒など、誠にありがとうございました。今後、南海トラフ大地震や水害が起きるのではと懸念されますが、商店街としてどのような対策をとればいいのか。また、ご協力いただけるのでしょうか。それと、ライフラインの欠如により発生が予想される事案事項がありましたら、教えていただければと思います。

【消防局総務課長】 消防局総務課の金澤と申します。ご質問ありがとうございます。まず水害の場合、地震とは違い、ある程度時間的余裕があります。ですから、テレビやラジオの気象情報をよく確認いただきたいというのが1点です。あとは日ごろからの備えとして、できれば側溝等の掃除を商店街の皆さんで力を合わせてやっていただきたいと思います。その際には、自主防災組織や消防団、女性防火クラブといった地域の各種団体と協力いただければと思います。ライフラインの欠如ですが、ライフラインというのが、電気とガスと水道になります。特に、水道が出ないということになると、飲料水が確保できないので、できれば各ご家庭で、1週間程度の家庭内備蓄をお願いしたいと考えています。もしよろしければ、こういったことを踏まえた上で、地区防災会議にご参加いただきながら、自主防災組織の皆さんや消防団の皆さんと一緒に話し合いをしていただければと思います。

【市長】 先ほどイベントの話がありましたので、イベントの補助についてご紹介します。皆さんのお手元にありますパンフレットの「商い賑わい支援事業」がイベントに対する補助です。実際に、平成27年の実績では、松山ロープウェー商店街の門前土曜夜市に38万5千円の補助、また、ロープウェー中央商店街さんの城山門前まつりに同額の38万5千円の補助をしました。大街道商店街振興組合さんの大街道ウェブサイトの再構築に37万2千6百円の補助金を交付しています。大街道中央商店街のおお

かいどうキッズランドにも38万5千円の補助をしました。イベントをしたい場合は、どうぞ皆さんも遠慮なく地域経済課に相談をしていただいたら、こういうサポートもできますということをご紹介できます。

【男性】 先ほど、市長から成功事例のご紹介がありましたが、かやまち商店街では、予算など、いろいろな悩みがあります。そこで、東京大学出身でばりばり都市計画をされている松山アーバンデザインセンターの小野先生のような方に、かやまち商店街に対してアドバイスなどをいただくことはできないのでしょうか。

【都市・交通計画課長】 アーバンデザインセンターは、松山市などの「公」と「民」「学」が連携をしています。アーバンデザインスクールといって、一般の方や学生さんが、まち歩きをして、まちづくりの勉強をするスクールを開講していて、今年からは、例えば、かやまち商店街さんやまちづくり協議会さんのような、スクールの運営に参加していただける地元の方を募集することになりました。募集は5月18日までですが、後で連絡先を教えていただければ、詳しくご説明したいと思いますので、ぜひご検討していただけたらと思います。アーバンデザインスクールに地元の若い方も一緒に参加してもらおうと、まちづくりのスキルをつけることができるし、アドバイスもそこでもらえるということで、一石二鳥じゃないかなと思っています。

【市長】 松山市がやっていることなので、ちょっと手前みそになります。アーバンデザインセンターの小野先生は、東京大学出のばりばりの方です。もう一人の東京大学の先生や愛媛大学さんにも力を借りて、全国でも非常に評価の高いアーバンデザインセンターですので、連携をしていただけたら、いい取り組みもできるのではないかと思います。

【地域経済課長】 松山市では、松山商業振興対策委員会をつくっていて、年に何回か先進事例の紹介で講師の方を招いたり、こちらから先進事例の都市に出向いたりする取り組みもしています。

【市長】 これまでに、味酒地区では2回のタウンミーティングをさせていただいていますが、その代表的な施策反映事例の写真をご覧ください。味酒小学校前の歩道橋の写真が出ますでしょうか。ご存知の方も多いでしょう。味酒小学校の歩道橋は、今はこのように歩道橋が小学校の敷地の中に入っていますが、以前はそうではありませんでした。10年前ぐらいからの難しい案件だったと聞いています。味酒小学校の前の道は、JR松山駅につながる道で、車や自転車で通られる方が非常に多いところです。味酒小学校の子どもたちは、この歩道橋を降りてきて、早く学校に入りたい

ですよね。ここは自転車に乗った会社員や高校生たちとクロスをするので、危ないところになっていました。これを味酒地区の1回目のタウンミーティングで言っていただきました。この前の道は県道ですので、歩道橋は県が管理をしています。松山市から、「歩道橋を伸ばさせてください」と愛媛県に話をし、学校に直接子どもたちが入っていけるようにしました。でも、ここで気をつけたことは不審者対策で、歩道橋の途中に門扉をつくって、子どもたちの登下校が終わると、門扉を閉めて簡単に入っていけないようにしました。ここで大きかったのは、大人の方が味酒小学校の校門のところに立って、ガードマンのような役割をしてくださったことです。あのように地域の方々が動いてくれていたのが、できた理由の一つです。そこで申し上げたいのは、今、私は市長の仕事をさせていただいて、やはり地元が動きがあって、それをサポートする形のまちづくりが一番いいと思います。中村時広前市長のときですけれども、ロープウェー街が古くなってきていて、あのアーケードを保つのが難しく、何とかしてくれという話が松山市にありました。当時のロープウェー商店街というのは三つの組合に分かれていたんです。皆さんの意見がまとまらないことには、なかなか行政として手出しはできませんので、まとまっていただいて、アーケードの改修ができました。今、ロープウェー商店街の方から、組合を一つにして、新たにスペースを設けることができないかという話も入ってきています。皆さんの動きがあって、それを松山市がサポートするのが、いいまちづくりではないかなと思っています。道後のアート事業で、松山にお客様が増えてきました。「市役所がやってくれ」と言われがちですが、私は皆さんと一緒にしたまちづくりをやりたいので、「地元も動いてください。市役所だけではできないですよ。企業さんもお金を出してください」という形で道後のアート事業ができました。昔、大街道商店街のラフォーレ原宿松山があった場所には、7年7カ月を経てアエル松山ができました。ここは東京の森ビルさんが決断をしてくれ、大街道商店街の入口は大街道商店街の方々が動いてくれました。柱1本分南に下がってくれて、大街道商店街の方々が、アーケードをきれいにして、松山市役所が路面を石畳に整備させていただいて、そして照明の柱やシンボルツリー、ベンチを設けました。国も動いてくれて、ロープウェー街と大街道が一体になるカラー舗装をしました。国と松山市と東京の森ビルと大街道商店街が一緒になった取り組みを評価いただき都市景観大賞を受賞しました。このように、地元の方々の動きがあるほうが、いいまちづくりができると思っています。

【男性】 かやまち商店街は、集客や注目度が落ちていると思います。思

いつきでとっぴなことかもしれませんが、花園町の商店街できれいだと思ったのが、イチョウ並木のイルミネーションです。かやまち商店街も平和通りに隣接していて、勝山町までずっと並木が続いていますので、国道196号から古町駅の間大きなイチョウ並木にそういう注目度のあるイルミネーションをすることは可能なんでしょうか。当然、花園町のイルミネーションでは企業やいろんな方が中心になっているというのは私もわかりますが、どうでしょうか。

【地域経済課長】 今日の資料にある制度も、そういったところに使うことは可能です。例えば、「商い賑わい支援事業」であれば2分の1の補助で、最高50万円まで補助できます。それに県の事業を活用すると、120万円ぐらいまで補助が可能で、事業費でいくと200万円弱になろうかと思えます。事業費が大きくなれば、負担も大変になると思えます。もし、そういうことをお考えであれば、一度見積もりを取られて、費用的に対応可能であれば、実現の可能性はあると思っています。

【男性】 何かシンボリックなものがないと注目してもらえません。だから、そういう派手なことを考えるのも一つなのかなと思います。

【市長】 こうやって皆さんがそれぞれに考えてもらうことが非常にいいことで、「そういう考え方もあるなあ」「いや、うちでは難しいなあ」「じゃあ、こうしたらできるんじゃないか」など、こういう話し合いの場が一番大事だと思います。私が南海放送に勤めていたときに、かやまち商店街さんではお弁当を買っていましたが、情報発信はすごく大事なことだと思います。情報発信のツールはいろいろとありますので、ご紹介します。私どもの「広報まつやま」は全戸配布ですけれども、松山市との協働イベントとしてイベントなどを開催されるのであれば、ご依頼いただければ、できるだけ松山市の広報紙の中でご紹介をさせていただくこともできます。また、味酒公民館では公民館だよりの「みさけ野」を年10回ほど発行していますが、その中で地域のまちおこしなどに関するイベント情報などを取り扱うこともできます。味酒地区さんはまちづくり協議会をつくられましたが、まちづくり計画の策定後は、広報紙の発行も予定されていると伺っています。この中でご検討いただければ、まちづくり協議会の広報紙に掲載されるということもできようかと思えます。また、松山市はまちづくり協議会情報局というフェイスブックを持っていますが、その中で商店街のイベントがまちづくり協議会さんとの協働イベントであれば掲載することも可能です。また、まちづくり協議会さんから、報道機関に情報提供して、取材につながることもあります。私どもにチラシを持ってきていただいたら、担当から記者クラブに資料をまくこともできます。今挙げただ

けでも5つの情報宣伝ツールがありますので、使っていただけたらと思います。情報発信というのは、非常に大事なことだと思います。

【男性】 かやまちで夏祭りをしていますが、そういうイベントの商業にも使わせてもらえるんですか。

【市長】 松山市との協働というところがクリアできれば大丈夫だと思います。地域経済課長、松山市との協働イベントにするにはどうしたらいいか、今言えることはありますか。

【地域経済課長】 例えば、松山市が後援するという形や、一定の公共性があれば、イベントを紹介するということもありますので、ご相談いただければと思います。

【男性】 公共性とは、例えばどのようなことですか。

【地域経済課長】 地域の行事などは公益性はあると思います。例えば、広報紙を見られると、福祉のイベントなどが掲載されていますが、それと同じような扱いで相談してみると、紙面に余裕があれば、可能かと思えます。一個人の営利目的ではなく、一定のまちづくりのためというところがあれば、紙面の関係はありますが、ある程度のところは対応可能かと思えますので、ご相談いただければなと思います。

【男性】 まちづくり協議会さんと協力して、年に1回イベントをする予定ですが、そういうイベントは公共性があると思うんですが。

【市民部長】 まちづくり協議会は、いろんな組織が集まってできあがっているわけですから、先ほどの夏祭りもまちづくり協議会の行事として取り扱えば、いろいろ可能なことはあると思います。主催である必要はないと思います。まちの行事だということにすればいいと思います。

【市長】 今の説明で、皆さん大分安心をしていただけたと思います。今のように相談をしていただけたら、こういうやり方だと難しいかもしれませぬけれども、こういうやり方だったらできますよという情報提供もできます。一番よくないのが、「どうせ市に言ったって変わらんわい」となることですので、どうぞ遠慮なく相談をしていただけたらと思います。

【男性】 3、4年ほど前から、三津浜地区の商店街や古民家で、いろいろ事業をされていると思います。私が三津の人から現状を聞くとちょっと低下気味というお話を聞きますが、現状はどうなっているかを教えていただけたらと思います。

【都市・交通計画課長】 三津浜は、地元に関心な方が多数いらっしやって、平成船手組というグループがあって、その下に、平成船手組ジュニアというグループが三津浜中学校にできています。もう1つはアーバンデザ

インセンターの先生がまちに定期的に入って、まちづくりの計画を立てている状況になっていますので、地元、小学校、中学校、アーバンデザインセンターと地元の組織のやる気が集まってできているまちづくりじゃないかなと思っています。

【市長】 三津浜の方々はよく動かれるなという印象です。広島風のお好み焼きとは違う、特長のある三津浜焼きのスタンプラリーなど、各店舗が盛り上げて動いていらっしやいます。例えば、三津浜焼きを広島に持っていても、最初は三津浜焼きって何かわからないですから、2日間のイベントでも最初はだめなんですよ。でも一所懸命PR方法を工夫して2日目には売れ出すんですよ。自分たちが動きながら、苦労しながら三津浜焼きがどうやったら売れるのかを獲得してきています。それから、シーフードバーベキューというイベントがありますが、もともとは三津浜の商店街の郵便局の近くで比較的小さくやっていたイベントでした。それが、どんどん大きくなってきて三津浜の中央の公園ではじめて、今では水産市場の駐車場でするようになりました。250名ぐらいの席で、7月の5回ぐらいだったと思いますが、すぐにいっぱいになってしまいます。年々、座席数は増えています。最終日は、250席のところ、500人ぐらいの予約が入るぐらいの盛況です。実際によく動いてくれているので、松山の水産市場の駐車場を提供しましょうというところまで広がってきました。今、三津浜の商店街の空き店舗と借りたい人をマッチングするという「ミツハマル」という拠点施設をつくって、借りたい人と貸したい人のマッチングをしています。平成26年度から28年度の3年間で15件の空き店舗が新しい店舗に生まれ変わりました。三津の宝があって、皆さんが動かれているからです。ですので、先ほど申し上げたように動きがあるということが大事で、そこに松山市がサポートするやり方がやりやすいので、引き続き、かやまち商店街の方々にも動いていただくといいかなと思います。

【男性】 話は飛びますが、カーブミラーは車の通行台数でつけるものですか。味酒小学校に歩道橋をつくっていただきましたが、あの近くで道路から自転車道路に出るのにすごく危ないところがあるんですよ。警察には、「設置できません」とけんもほろろに言われるんですけども、市ではどんな対応ができますでしょうか。

【都市・交通計画課長】 この会議が終わったあとに、詳しく場所を聞かせていただいて、現場を見るようにします。道路をつくったり、維持したり、交通安全についても私の部が担当していますので、現場を見させていただいて、警察の意見を聞いて、お返事をさせていただけたらと思います。

【男性】 車道に対してはできるけれど、歩行者と自転車のことはできませんとはっきり警察に言われたんですよ。

【都市・交通計画課長】 歩道上で、自転車と歩行者が危ないということですか。自転車が通行してもかまわない歩道と自転車が通行したらいけない歩道とがあって、これは警察の所管なんです。なかなか難しいところがあるかもしれませんが、まち全体の総意で要望をし続けるとか、あきらめずにやったらどうかと思いますが、まずは現場を見させてもらいますので、あとで場所を教えてください。

【女性】 かやまち商店街が衰退し、店舗が減っているということですが、活性化のためには、店を増やすことが重要だと思います。先ほど、三津浜の貸したい人借りたい人のマッチングの話がありましたが、かやまち商店街で、実際にテナントとして借りてほしいという店舗は多いのでしょうか。

【市長】 私も知りたいので、教えていただけますか。

【男性】 かやまちカフェさんの出店の際に、商店街の皆さんを回って見たんですが、そのときは少なかったです。貸してくれるところでも家賃の折り合いがつかないところもありましたが、その後、多少事情も変わっていますので、今は何店舗かはあると思います。それなりに探して、大家さんに話をすれば、少しはあるかなという気はします。広さなどの条件や、古くて直す費用がいるというのもありますので、多くはないけれど、少なからずあると思っています。

【市長】 松山は穏やかな気候ですから、移住定住の場所として結構可能性があると言われていますが、松山の島しょ部でもこれと同じような話があります。例えば、島しょ部で「空き家を貸しませんか」と言うと、「子どもがよそに出ていて、いつか帰ってくるかもしれんけん、貸せないんよ」とか、「お仏壇があるから貸せないんよ」とか、それぞれの事情があるというのは感じています。流動性が高まって、借りたい人と貸したい人がマッチングすると、新しい展開にもなっていきます。全体としてかやまち商店街は、私は結構新しいお店も出てきていると感じていて、決して衰退の一途とは感じていませんので、頑張ってください、マッチングができて新しいお店に出てきていただければなと思っています。

【男性】 私は本業が不動産業で、毎日かやまち商店街を通るのに、募集看板が出ているのは1店舗だけです。老朽化で貸せないとか、法律の問題があると聞くこともあります。かやまち商店街には古い建物が結構多くあります。空いているのに募集をしていないと、借りたくても誰も行けないで

すよね。膳本を調べて行く人もいませんでしょうから。今日はかやまち商店街のことなので、実際古くてもう使えないかもしれないなというところも見受けられますが、松山市として、空き家対策の状況は、どのようになっているのでしょうか。

【都市・交通計画課長】 商店街に限らず、空き家は全国的に大きな問題となっています。松山市では、空き家の発生を抑制するのに、「わが家のリフォーム応援事業」といって、リフォームされる方の家に対して、最大で100万円の補助金が出る制度があります。基本工事としては、長く住み続けられるようにするとか、省エネタイプにするとか、LEDにするとか、高齢化社会に備えてバリアフリーの家にするとか、耐震性を上げるなどがあり、子育て応援タイプや移住者の中古住宅購入者で3世代が近居している場合は加算割り増しがあります。ただ、基本は住居ですので、店舗が1階で2階は住居の場合は、相談をしてもらわないといけません。募集が来月から始まりますが、予算も限られていて、先着順になっていて、去年は1カ月ももたずに出てしまった経緯があります。それから、国では空家対策特別措置法が施行され、周りの家が危険な状態になる家で、所有者が対応しない場合は、特定空家という空き家に指定をして、勧告助言をしていくことができる法律になりました。危険なものトリフォームして長く使えるもので、松山に長く住めるような施策をとっています。

【市長】 最後に私から話をさせていただいたらと思います。今日は長時間にわたり、いろいろと意見交換をさせていただきまして、ありがとうございました。ぜひとも、かやまち商店街の皆さんには頑張ってもらいたいと思います。今日は私が前の仕事のときに取材でお世話になったお店の方もお越しです。かやまち商店街は、私だけでなく、多くの方に愛着があるところではないかと思います。かやまち商店街は、路面電車が近くになかったら、話はまた別だと思います。全国には1,700を超える市町村がありますが、路面電車はわずか17都市にしか走っていません。つまり、100分の1都市にしか走っていないのが路面電車です。かやまち商店街さんは路面電車だけではなくて、高浜線の郊外電車もすぐそばにあります。すぐ前の本町の通りにはバスが走っています。しかも、普通の停留所だけではなくて、バスロケーションシステムという何分後にバスが来ますという、日本でも伊予鉄さんがかなり早くに導入したものも近くにあります。タクシーも古町駅に行けばあります。例えば、萱町が坂でいっぱいのもちだったら、お年寄りの方に歩いてきてください、自転車に来てくださいとは言えなかったと思います。この松山がものすごく雪が積もるまちだった

ら、歩いてきてください、自転車で来てくださいとは言えなかったと思います。このかやまち商店街は路面電車がすぐそばにあり、バスもタクシーもあり、郊外電車も走っていて、運転免許を返納したとしても移動ができる便利のいい場所にあると思います。堀端にはマンションも増えています。可能性はいっぱいあります。季節感が味わえないところだと、生活に潤いがないと思いますが、すぐそばに堀端があります。梅や桜や緑の青々とした季節感を味わうことができます。歩いている人やランニングをしている人も見かけます。かやまち商店街が好きで来られて、「おばさん、何しよん」「おいさん、久しぶりじゃねえ」、そういう会話がされて、コミュニティができています。少し進むと平和通があります。松山は俳句のまちらしく、句碑がいっぱい建っています。イチョウ並木で季節を感じることができます。大きな冷蔵庫と小さな冷蔵庫の考え方がありますが、郊外のショッピングセンターに行くと、1週間に一度、いっぱい買い物をして、車に積んで帰ってくるのは大きな冷蔵庫の考え方です。日々の買い物に出かけて、少しずつ買って、魚屋さんや八百屋さんに行くと、「最近何がおいしいの」と旬のものを食べるというのが小さい冷蔵庫の考え方です。日々の会話も楽しめると思います。そう考えると、かやまち商店街さんは宝がいっぱいだと思います。昔とは流れが変わってきているかもしれませんが、かやまち商店街さんができなかつたら、じゃあどこができるんですかと思うぐらい、かやまち商店街さんは宝がいっぱいです。ですので、かやまち商店街さんにはぜひとも頑張ってくださいと思います。我々もできるだけサポートさせていただきます。今日ご紹介した商店街サポートのメニューもいろいろあります。PRの手段も市役所に言っていただいたら、いろいろご紹介することができます。「市役所に言うても変わらんわい」ではなくて、市民の皆さんの役に立つところと書いて市役所ですから、どうぞ遠慮なく我々に相談していただいたらと思います。松山市にとっても、この萱町は宝だと思って共に取り組んでいきたいと思いますので、どうぞ遠慮なくおっしゃっていただいたらと思います。今日は長時間にわたりまして、本当にありがとうございました。

- 了 -